

競争力のある農業経営へ

きはら いなしきぐんみほむら
木原地区(茨城県稲敷郡美浦村)



事業地区の概要

事業名 経営体育成基盤整備事業 (旧ほ場整備)

受益面積 62.8ha

工期 H13~H21

総事業費 1,501百万円

土地改良区等 木原土地改良区

農業経営のタイプ 組織経営+個別経営展開型

関係土地改良事務所 稲敷土地改良事務所

■事業の実施により農地の集団化と大区画化が図られ、事業を契機に設立された木原集落営農組合に農地の利用集積が図られました。



地区の紹介

- 抱えていた課題
 - ・兼業化の進展や担い手の高齢化に伴う、米産地としての担い手の育成および確保の必要性。
 - ・効率的な土地利用や作業能率の面から小規模水田及び湿田状態の改善の必要性。
 - ・特色ある米作り、生産コストの低減から大区画ほ場への転換。
- 実施内容
 - ・担い手不足や米価格の低迷から集落内に営農組合を組織化し、担い手の育成を図る。
 - ・小規模水田、排水不良水田から大区画化、乾田化水田ほ場に改善する。
 - ・従来の外観品質重視の米作りから食味重視、買ってもらえる米作りへの転換を図る。
- 効果など
 - ・事業を契機に、担い手からなる木原集落営農組合を組織し、大規模経営が可能となり、将来的にも持続可能な競争力のある農業経営が確立する。
 - ・乾田化に伴い、麦・大豆・野菜等の作付けが可能となり、農業所得が向上する。

木原集落営農組合

事業開始に伴い、集落内の合意形成を図るため、各関係機関が連携し、地権者に対し説明会、アンケート調査等を実施し、さらに関係機関が役割分担を持ち、連携し支援を行ったことにより、組合に対する農地の集積が進むとともに、平成18年からは、稲敷管内としては先進事例となるブロックローテーションも開始された。

また、販売面では、茨城県のオリジナル米6銘柄の一つに選定された「美浦そだち」が約26%生産されるなど、組合が地域における担い手として定着しつつある。

構成員 4名+1生産法人
経営面積 66.1ha(地区内:46.2ha 地区外:19.9ha)



担い手による水稻収穫作業



(H21時点)

担い手現況経営等面積	8.3ha
担い手実績経営等面積	46.2ha
農地集積面積	37.9ha
受益地に占める担い手経営等面積率	73.6%
大区画面積	31.4ha
大区画化率	50.0%

【施工前】



【施工後】

